平成２４年度自己評価中間報告書

重点目標		具体的取組		主担当	評価の観点	実施状況の達成度判断基準	判断基準	備　　考	中間評価	分析・改善策等
１	基本的な生活習慣の確立を図るために、カウンセリングマインドによる指導を推進し、一人ひとりに対し適切な生徒指導に努める。	①	積極的な声かけ・挨拶を通じて、円滑な人間関係の構築を図る。	全教職員	【成果指標】 自ら進んで挨拶をできる生徒の割合	挨拶ができた生徒の割合が Ａ　９０％以上 Ｂ　８０％以上 Ｃ　７０％以上 Ｄ　７０％未満	Ｃ・Ｄなら検討	７月末及び１２月に調査 生徒 教員	生徒調査 86.0% 評価　Ｂ 教員調査 38.5% 評価　Ｄ	挨拶を返すことはできるようになってきたが、自ら進んで挨拶をするまでには至っていない。それが生徒・教員調査の差となって表れている。SH等の挨拶では声がでるまで練習をしている学年もあるので、それを全校的に広める等、指導を継続・拡張していく。
		②	遅刻・欠席防止のために、家庭との連携を密にする。	生徒課 各担任	【成果指標】 一人あたりの年間遅刻回数	一人あたりの年間遅刻回数 Ａ　２．５回未満 Ｂ　２．５回以上 Ｃ　３．０回以上 Ｄ　３．５回以上	Ｃ・Ｄなら検討	７月末及び１２月に集計 生徒課	一人あたりの4月～7月遅刻回数 1.8 回 評価　Ｄ	４ヶ月で1.8回は年間に換算すれば4.9回となるため評価Ｄである。基本的生活習慣が確立されていない1年生による遅刻が圧倒的に多い。1年生の生活習慣も好転してきているので後期は減ると思われるが、個人指導、全体指導ともに力をいれていく。
		③	生活に関する各種調査をもとに生徒や保護者の自覚を促す。	保健課 生徒課 各担任	【努力指標】 生活調査と意識調査等を計画的に行った回数	調査回数が Ａ　４回以上 Ｂ　３回以上 Ｃ　２回以上 Ｄ　２回未満	Ｃ・Ｄなら検討	５月末及び１２月に調査 保健課	4月～5月の調査回数 １ 回 評価　Ｄ	後期に２回実施の予定である。調査結果についても、保健だより等を通じて保護者にお知らせしていく。
２	基礎学力の定着とともに発展的学習を取り入れることにより、多様な生徒に対して向学心及び学習意欲の喚起を図る。	①	基礎学力の定着のために授業の進め方や授業内容の工夫改善を図る。	教務課 各教科	【成果指標】 個に応じた指導や教材、教具の工夫によって、授業内容がよく分かったと答える生徒の割合	授業がわかりやすいと感じた生徒の割合 Ａ　８０％以上 Ｂ　６０％以上 Ｃ　４０％以上 Ｄ　４０％未満	Ｃ・Ｄなら検討	７月末及び１２月に調査 生徒	生徒調査 87.0% 評価　Ａ	生徒の学習意欲を高める具体的な実践を教科間で共有し、個に応じたプリント等の教材工夫を継続的に図っていく。
		②	年間を通して、全教師が互いの授業を参観し、授業改善に取り組む。	教務課 各教科	【成果指標】 参観後の評価を集計し、生徒の主体的活動がみられた授業の割合	集計後の割合が Ａ　８０％以上 Ｂ　６０％以上 Ｃ　５０％以上 Ｄ　５０％未満	Ｃ・Ｄなら検討	１２月に調査 教員		
		③	課題・宿題等について工夫するとともに、提出を徹底させる。	教務課 生徒課 各学年	【成果指標】 課題・宿題等を期日までに提出する生徒の割合	提出状況が Ａ　９０％以上 Ｂ　８０％以上 Ｃ　７０％以上 Ｄ　７０％未満	Ｃ・Ｄの場合は、指導法を検討	７月末及び１２月に調査 生徒 教員	生徒調査 79.1% 評価　Ｃ 教員調査 76.0% 評価　Ｃ	指導の割に課題等の回収率が低い。学習習慣を定着させるためにも、提出期限を守らせる指導を教科と学年の連携で効果的に行っていく。

重点目標		具体的取組		主担当	評価の観点	実施状況の達成度判断基準	判断基準	備　　考	中間評価	分析・改善策等
３	早期に進路意識の高揚を図るため、適宜、具体的な進路情報の提供と、志望進路実現のための支援体制及び支援内容の充実に努める。	①	３年間を見通した指導計画に基づき、能力・適性に応じた支援・指導を行う。	進路課 各学年	【成果指標】 自分の進路に関心を持つようになり、将来を前向きに考えられるようになった生徒の割合	進路意識が向上した生徒が Ａ　８０％以上 Ｂ　６０％以上 Ｃ　４０％以上 Ｄ　４０％未満	Ｃ・Ｄなら検討	７月末及び１２月に集計 生徒	生徒調査 69.6% 評価　Ｂ	１年生においては９月、２年生においては１１月に進路学習が予定されているので、次回調査時にはさらにＡ評価に近づく予定である。
		②	ハローワークや地域の企業等と連携して、就業の支援・指導を行う。	進路課 各学年	【成果指標】 就職決定率	就職希望者の決定率が Ａ　１００％ Ｂ　９５％以上 Ｃ　９０％以上 Ｄ　９０％未満	Ｃ・Ｄなら検討	２月に調査 進路課		
		③	授業や学校行事等で、コミュニケーション能力向上に資する体験学習を行う。	総務課 各学年 各教科	【努力指標】 コミュニケーション能力の向上に資する保育所訪問やボランティア活動などの取組回数	年間の取り組み回数が Ａ　１０回以上 Ｂ　　８回以上 Ｃ　　６回以上 Ｄ　　６回未満	Ｃ・Ｄなら検討	７月末及び１２月に調査 総務課	4月～7月の調査回数 19 回 評価　Ａ	半期で目標回数の約２倍で評価Ａとなってしまった。次年度も継続目標とするならば、判断基準や目標値を見直す必要がある。
４	保護者・地域社会との連携を深め､課外活動やボランティア活動等をとおして地域に貢献する態度を養う。	①	学校への関心・理解を深めるため、ＰＴＡ総会や学校公開週間、文化祭等の参加者を増加させる。	総務課 教務課	【成果指標】 ＰＴＡ総会、文化祭、学校公開等の来校者数	来校者の延べ数が Ａ　１８０名以上 Ｂ　１５０名以上 Ｃ　１２０名以上 Ｄ　１２０名未満	Ｃ・Ｄなら検討	１２月に調査 総務課		
		②	地域活動へ積極的に参加するのみならず、地域と連携した課外活動やボランティア活動を企画・実践する。	生徒会係 各部顧問 総務課	【努力指標】 地域と連携した活動の回数	地域と連携した活動の回数が Ａ　１２回以上 Ｂ　１０回以上 Ｃ　　８回以上 Ｄ　　８回未満	Ｃ・Ｄなら検討	２月に調査 生徒会係 総務課 進路課		
		③	地元中学校との交流を企画し、体験入学などを通して本校をＰＲする。	教務課 総務課	【成果指標】 体験入学や学校公開等に参加する中学生の延べ数	中学生の来校者数が Ａ　７０名以上 Ｂ　５０名以上 Ｃ　３０名以上 Ｄ　３０名未満	Ｃ・Ｄなら検討	１２月に集計 教務課 総務課		